

名古屋のアマチュアオーケストラ、名古屋ワグナー管弦楽団がウィーンタイプの管楽器を使ってコンサートを行う。4月25日(日)午後1時半から愛知県芸術劇場コンサートホールで、曲はワグナーの「ニーベルングの指輪」(抜粋)。

名古屋ワグナー管弦楽団は、2008年4月に同ホールでワグナーの「ワルキューレ」第1幕を演奏会形式で上演するために結成された。今回は2回目の公演。

「第1回公演の数年前に、関西のアマチュアオーケストラでウィーン・ホルンを吹く一人とウィーン・クラリネットを吹く二人が一緒になって意気投合し、「いずれ名古屋でオペラをやる時はウィーンタイプの楽器に揃えてできればいいね」という話になったのが発端です。

その後メンバーを集めたところ、幸いにも、メンバーを集めるのが一番難しいと思われたウィーン・オーボエ奏者が3名参加することになり、オーボエ、クラリネット、ホルン、トランペットのすべての奏者がウィーンタイプの楽器を使うことになりました。

2回目となる今回の演奏会でも、メンバーは若干変わりましたがウィーンタイプの楽器はキープしました。また、ホルンパート9名のうち4名はワグナー・テューバ持ちかえですが、この演奏会のためにウィーンフィル仕様の楽器を導入しました(同団代表の金井功さん)



●ワグナー・テューバもウィーンフィルで使っているのと同じレヒナー製(テナー&バス各2本)で揃えた。



●トランペットもレヒナー製です。

◎名古屋ワグナー管弦楽団が4月に演奏会形式で上演

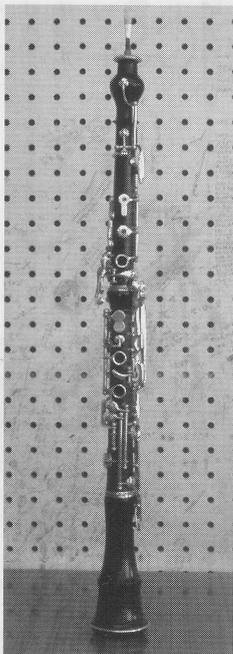
「ニーベルングの指輪」を ウィーンタイプの管楽器で演奏

この日演奏されるウィーンタイプの楽器は、オーボエがツレーガーとヤマハのウィーンモデル、クラリネットがオットマール・ハンマーシュミットのウィーンモデル、ファゴットがヘッケル、ホルンがウィーン・ホルン(ヤマハ3、ユンクヴェルト3、ハーグストン、アトリエハロー、ガンター各1)、ワグナー・テュー



●各社のウィーンホルンが集まり壮観!

バ持替え(すべてレヒナーのテナーとバス各2)、トランペットが



●ツレーガー製のウィーンオーボエ



●クラリネットはすべてオットマール・ハンマーシュミットのウィーンアカデミー式。バスクラリネットもエーラー式。



レヒナー。ちなみにティンパニもウィーン式だという。
指揮は城谷正博、独唱は池田香織(ブリュンヒルデ)、片寄純也(ジークフリート)。曲は第1夜「ラインの黄金」からヴァルハラ城への神々の入場、第2夜「ジークフリート」から、第3夜「神々の黄昏」からの各抜粋。
料金2000円。当日は開場後の午後1時15分から音楽評論家・吉田真氏によるレクチャーも行われる。問い合わせは名古屋ワグナー管弦楽団事務局0561(61)1527。